

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：身体運動を考える ILAS Seminar :Quest for Human Motor Control			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 萩生 翔大		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	10(10)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	人間・環境学研究科棟4階406室			使用言語	日本語
キーワード	身体運動 / スポーツ / 運動制御・学習 / 脳・神経						
[授業の概要・目的]							
日常動作からスポーツ・楽器演奏に至るまで、私たちは実に多様で複雑な身体運動を生み出している。本ILASセミナー：身体運動を考えるでは、どうすればもっと高く跳べるのか、どうすれば上手にピアノを弾けるのか、といった素朴な疑問や、受講生の体験を手がかりに、関連する文献や資料などをもとに話し合ったり、簡易的な運動計測をしながら、身体運動が生み出される仕組みについて学習する。日常動作やスポーツまたはリハビリテーションなどを題材に、ヒトの身体運動を、運動制御学・神経科学・運動生理学といった観点から理解していくことを目指す。							
[到達目標]							
・身体運動の制御やその機序に関する知識を習得すること。 ・自分自身や他者の運動を専門的に観察し考察する能力を獲得すること。 ・専門的な資料を読んでその内容を要約しプレゼンすることで、プレゼンテーションの基本的素養を習得すること。							
[授業計画と内容]							
フィードバックを含め、全15回の授業を実施する。							
第1回：授業の進め方についてのガイダンスを行う。2回目からの授業のテーマやテキスト・資料などについて、受講生と話し合い、各受講生の興味関心に合ったものを決定する。 第2～14回：ヒトの運動の制御やスポーツ、トレーニング、リハビリテーションなどに関するテキストや資料を素材とし、担当者がその内容をプレゼンし、それについて受講生皆で議論を行う。また場合によっては、受講生にスポーツ・楽器演奏などの体験談を話してもらったり、実際に身体を動かしたり、運動に関する映像を視聴したり、簡易的な運動の計測をしたりしながら、身体運動についての理解を深めていく。 第15回：フィードバック							
[履修要件]							
特になし							

ILASセミナー：身体運動を考える(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー：身体運動を考える(2)

【成績評価の方法・観点】

出席と参加の状況(約60%)と発表内容(約40%)で評価する。ディスカッションへの参加の積極性も加味することがある。詳細は、初回授業にて説明する。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

翌週の授業のためにそれまでの授業内容を復習・確認しておくこと。また、次の授業で使用するテキストや資料をあらかじめ読んでおくこと。

【その他(オフィスアワー等)】

オフィスアワーについては、KULASISを参照のこと。

【主要授業科目(学部・学科名)】